

第6期 保坂幸雄

昭和24年(1949年)8月に千歳高校ラグビー部は旧土浦海軍航空隊跡のグラウンドを借用して新チーム(6期・7期・8期)総勢36名参加のもと本格的夏季合宿を行った。

その後この合宿の猛訓練が千歳ラグビーの礎になったと謂れたものである。

終戦後間もない食糧難の時代で、たしか各人が「米」を持参して参加したことを憶えている。

昭和24年当時東京都内で高校にラグビー部があったのは約30校位だったがその中で千歳の良きライバルは保善商業・学習院高等部・都立大森高校等があり他県に高崎高校・水戸農業高校などが千歳の好敵手として存在していた。

前年の昭和23年5期生の吉田さん(キャプテン)、SHの川鍋さん、FWの角田さん・石田さんを中心とした千歳ラグビー部は「東京に千歳あり」と云われる位までに評価を得ていたがその5期生が卒業されて私達6期生藤江(キャプテン)、井野(FB)、保坂(LO)、本橋(FW)が最上級生となった新チームがはたして何処までやれるのか?という危機感が千歳高校ラグビー部の関係者にあったのではなからうか。そしてそのことがこの土浦の合宿になったのではないかと思われる。

合宿にはコーチとしてOBとなられた5期の吉田さん・岡山さん・石田さんが参加され又特別に千歳高校体育教師の森川先生にも参加して頂いた。

合宿の練習スケジュールはその森川先生が発案された練習プランにより早朝6時からの長距離のランニングに始まり午前中は徹底した基礎体力づくりの訓練が行われ、午後はラグビーの実戦訓練を主に行われた。

その当時千歳高校ラグビー部は4期の相馬さんのご尽力により早稲田大学と明治大学のご指導を受けていたが、特に早大ラグビーの影響を強く受けていたこともあり所謂早稲田の「ゆさぶり戦法」がその指標となっていた。

土浦の合宿もそのゆさぶり戦法(今でいうグラウンドいっばいを使った展開ラグビー)に一歩でも近づける様な練習内容だったと思う。

よく昔から「練習で泣いて本番で笑へ」という言葉があるが練習が終って旅館の階段をはって登ったという経験をさせられ唯々苦しかったという強い印象が今でも残っている。

今にして思えば6期生の我々があの土浦の合宿で苦みに耐えたのは折角4期・5期の先輩がつくってくれた「東京に千歳あり」という評価を後輩達につなげたいと一念だけだったのではないだろうか。

今自分が65才という年齢を迎えて思うことは、とにかく人生で一番多感な少年期にただひたすら一つの事に打ち込めたラグビーに出会えた事を感謝するのみである。

然し乍ら昨今ラグビー人気そのものが下降線を辿っている傾向にあると云われるが我が母校千歳高校にも何とか運動部としてのラグビー部が復活することを切に願うものである。

○第28回全国大会予選 1回戦出場メンバー

角	浅	芹	保	石	工	清	本	川	木	藤	吉	蔭	小	井
田	野	沢	坂	津	藤	水	橋	鍋	村	江	田	山	林	野
				FW				HB		TB		FB		